

大地と暮らしをつなぐ農のストーリー その3



在来作物を守り活かす NPOと企業

— 浜松市水窪地区における協働 —

2020 **7.26** 日 13:30~15:00

定員
40名

参加費
無料

講師資料の郵送料は必要です。

オンライン講座 (YouTube の Live システム) 【事前申込み制】



静岡県内には「オクシズ」をはじめ、在来作物が数多く残っていることが明らかになっています。しかし、担い手農家の高齢化、後継者不足等により、様々な在来作物の種が失われる恐れに直面しています。在来作物を守ることにはどのような意味があるのでしょうか。また、市民団体が在来作物等の自然環境を保全するにあたり、企業と継続的に連携するためには何が求められるのでしょうか。本講座では在来作物の保全と活用に関し、実践・研究している方をゲストに招き、参加者と一緒に考えていきます。

こんな方におススメ!

- ・ 在来作物の保全、NPOと企業間連携、企業のCSR ・ オーガニックや健康食、農山村の地域活性化
- ・ 広く自然環境や生物多様性の保全

これらに関心のある人、または各地で実践している人



講師

NPO法人こいねみさくぼ理事長 静岡大学農学部教授

中 政俊さん

稲垣 栄洋さん

番町市民活動センターは市民活動の仲間づくりをします

主催 静岡市番町市民活動センター



講師プロフィール

中 政俊さん NPO法人こいねみさくぼ理事長

山間地・水産で写真店を経営。2013年にNPO法人こいねみさくぼ(会員14名)を設立し、地元内外のサポーターと在来ジャガイモやアワを栽培。5年前から(有)春華堂と協働し、雑穀の特産物化を図り、地域に活気を取り戻しています。この取組みは、静岡県から「しずおか一社一村運動」に認定されています。



稲垣 栄洋さん 静岡大学農学部教授

専門は農業生態学、雑草学。在来作物にも造詣が深く、静岡市の啓発事業等に携わっています。著書は『しずおかの在来作物 一風土が培うタネの物語』(静岡新聞社 2014年)、『イネという不思議な植物』(筑摩書房 2019年)、『世界史を大きく動かした植物』(PHP エディターズ・グループ 2018年)等、多数。



講座の流れ

※各自 YouTube を閲覧できる環境が必要です。
PCや会場の貸出はいたしかねます。

趣旨説明 → 中さんのお話 →
稲垣さんと中さんの対談 → 閉会のあいさつ

お申込み・問合せ

電話で受付をします。当センターまでお名前、所属、電話番号をご連絡ください。正式なお申込み手続き(郵送方法)、講師資料の発送日等をお知らせいたします。



対談では受講者からの
質問・感想等を反映します。
お気軽にどうぞ!



7月18日(土) 必着

静岡市番町市民活動センター(〒420-0071 静岡市葵区一番町50番地)

TEL:054-273-1212 FAX:054-273-1213

E-mail:mail@bancho-npo-center.org

ホームページ:https://www.bancho-npo-center.org



※やむをえない理由により開催を延期、または中止にする場合があります。あらかじめご承知おきください。